

## 淡海の川づくり検討委員会 議事概要

日 時：平成 23(2011)年 12 月 21 日(水) 15:00～17:00

場 所：コラボしが 3 階 中会議室 1

出席者：淡海の川づくり検討委員

中川委員長、立川副委員長、岩崎委員、小野委員、丸山委員  
事務局

滋賀県流域政策局、流域治水政策室

河川・港湾室、水源地域対策室、高島土木、北川ダム建設事務所

傍聴者：報道機関 5 名

議事内容：検討結果について

概 要：「北川ダム建設事業ダム検証に係る検討結果」を審議した結果、河道改修を先行する案が最も優位であるとする県の提案は妥当と判断しました。

### 検討結果について

委 員：(時間的な観点からの評価)資料で 1/50、1/100 と記載されていますが、今後策定される安曇川の河川整備計画でどのような位置付けになるのですか。

事務局：ダム検証の方針決定後、来年度になると思いますが河川整備計画を策定する予定で、当面の整備目標は約 1/30 とします。安曇川の治水計画は、将来 1/100 で検討を進めてきた経過があり、残りの部分の対策(1/50～1/100)は参考資料に記述する形で整備計画の中で整理したいです。関係住民の意見を踏まえ議論してきましたので、将来目標も何らかの方法で残したいです。

委 員：県としては、河川整備基本方針相当とし 1/100 を考えたいと言う事ですか。

事務局：淀川水系では整備方針は 1 つで、県の河川までの詳しい記載がないですが、滋賀県では県独自に河川整備方針は決めており、安曇川は将来 1/100、当面の整備目標約 1/30 としています。

委 員：7 つの評価軸や「地先の安全度」は、1/30 を進める事を前提とする(時間的な観点からの実現性)説明で、1/50、1/100 の場合の評価はどうなのですか。

事務局：国からの検証基準は、当面の目標約 1/30 での評価を求められています。資料では 1/50 から 1/100 の部分の記載もありますが、この評価は求められていないです。

委 員：意見ですが、住民の立場から、1/100 と 1/30 の評価に矛盾しないのが大事です。

事務局：1/30 以外の部分は、評価の密度が低く、住民に不安が残るとのご指摘と理解しました。

委員 : 1/50、1/100 の評価は将来に行う事で、今回はこの委員会の審議内容では無いとの理解で宜しいですか。

事務局 : そうです。

委員 : 資料から目標を 1/50 の時はダム案が経済的に良いと、しかし、1/30 としたときは、何処までの目標レベルを設定するかによって、ダムもまだあり得るとの事ですか。

事務局 : 資料 6 頁の 1/50 を目指す(ダム+河道改修)案を今回変えた訳ではないです。現状は第一ダムを先行させ、あと第二ダムと河道改修が必要であるが、ダムはお金が掛かり治水安全度も上がらない状況です。ダムより河道改修を先にする順序の方が、治水安全度が早く上がる検証結果になります。

委員 : 分かりやすい説明です。

委員 : 長期的に 1/100 にするときは、住民意見にもありましたが、ダムが必要と言う認識ですか。

事務局 : 昭和 32 年から下流の河道改修が約 4km、既に完成しており、治水安全度は約 1/30、約 2100m<sup>3</sup>/s の流下能力になっています。今の計画で上流まで進めると 2100 m<sup>3</sup>/s の河道改修に対し、例えば 1/50、1/100 の洪水をとった場合に流せない流量が出ます。その部分を計画しているダムで調節するのが、現時点の手法です。ただ、このダム案がこれから先の段階でベストかどうかは、その段階で検証されるものと考えています。

委員 : 県独自の「地先の安全度」評価で、1/50、1/100 と大きくなるときに、ダムがある案に浸水家屋数が少ないです。効果があるとはどのような理屈か教えて欲しいです。

事務局 : 単純に言うと、第一ダムだけで 1000 万 m<sup>3</sup> の治水容量があり、その分下流に流れる氾濫流量が減り、浸水家屋数も減少します。1000 万 m<sup>3</sup> 分はダム流域に限り雨が降らなかったのと同じ事で、ダムの洪水調節効果が出て来ます。

委員 : 流水型の洪水調節ダムは洪水のピーク時に効果があります。洪水時にはダムに洪水が貯留されます。

委員 : 計画規模を超えるような雨だとダムの効果が減るが、それでもダムも効果があると改めて理解した(計画規模を超える洪水時でも治水容量分はダムに貯留されます)。

事務局 : ダムが効果的なのは、中央集中型ハイエトモデルの使用が影響しています。

委員 : 安曇川の現地を見て、地域の方々が地下水を利用して暮らしている事が分かりました。地域の方々より、地下水への影響が心配される意見があります。地下水へ配慮しながら河道改修を進めると記載がありますが、具体的にはどのように行おうのですか。

- 事務局 : 現時点で、資料 62 頁横断面図の、地下水・伏流水は川の河床部、低い部分の影響を受けると考えられます。今回は洪水時に流れる断面を確保すれば安全度を確保出来るので、点線で記載の高水敷の部分で、通常水の流れる河床部を改変せずに断面を確保する事が、一番効果的と考えています。ただ、地下水がどの様に流れているか、十分わかっていないので、ダムの方針が決まれば地下水の動向を調査し確認後、少しずつ様子を見ながら、対応したいです。
- 委員 : 河道改修と記載がありますが、河道改修の具体的な説明が不足してないですか。1/30 改修の時は、河床は触らない方針ですね。
- 事務局 : そうです。
- 委員 : 改修区間は、なるべく河床でない砂州や高水敷きを掘り、断面を確保する方針です。高水敷をどの程度掘れば地下水の影響があるかは、モニタリングで影響も見ながら少しずつ進めて行きます。それで良いと思います。もう少し住民の方にうまく説明された方が良いと思います。
- 委員 : 資料 40 頁概要で、「河床掘削」の文章表現は、誤解を生みやすいと思います。
- 委員 : どの手段を用いても一部も河床に手を入れず進めるのは無理と思いますが方針は高水敷か、出張った砂州、普段浸水しない所を掘削すると理解して宜しいですか。
- 事務局 : 参考資料 3 - 2、第 3 回「検討の場」参考資料 28 頁以降に現時点で何処をどの様に掘削すると資料を示しています。質問に対し、河床ではなく高い部分を掘ると今現在考えていると説明しました。ある程度の理解は頂いていると思います。
- 委員 : 河道改修の方針の中で、この前現地を見学したときに二線堤がずいぶん残っていますので、民地もありハードの対応は難しいかも知れないですが、河川整備計画で位置づけられたら良いと思います。
- 事務局 : 流域治水対策の中で、二線堤や霞堤の保全をうたっており、効果を検証した上で保全を図りたいと言う基本的な考え方は持っています。
- 委員 : 資料に、何十年も堤防の調査がされず、堤防が綻びているとの意見の記載がありますが、堤防の調査はされているのですか。
- 事務局 : 早期に改修が必要な河川を A ランクから B、C、D にランク分けし、それ以外に天井川、いわゆる T ランク河川で、堤防の調査をして、対策が必要な所は随時進めています。天井川は、調査を進めている状況です。ただ、ここで意見が出たのは、河川の維持管理が不十分という観点からです。滋賀県は過去約 10 年間、河川の維持管理費に十分予算が回っていませんでした。今年度から増額が認められ、その様な箇所の対応は、概ね出来ていると考えます。維持管理に対しての意見が多かったのが、この検証を通じて言える事で住民の意見は反映させて行きたいです。知事にもその旨を伝えていきます。

- 委員 : 改修では、堤防に存在感があり、住民に見える形で進める方が良いと思います。  
事務局 : 分かりました。  
委員 : 重要な意見ですね。超過洪水が起こった場合、堤防が重要な役割を果たします。超過洪水が発生する事を、十分頭に入れて進めて欲しいです。  
委員 : 「北川ダム建設事業ダム検証に係る検討結果」により、河道改修を先行する案が最も優位であると、まとめて宜しいですか。  
委員 : 異議無しです。

以上